２０２６年１月３０日

小山田小

町田市立小山田小学校
校　長　　悴田　隆良
令和７年度学校だより　第10号
http//www.machida-tky.jp/e-oyamada/

多様な「経験」が、一生ものの根っこを育てる

副校長　坂之上富隆

寒さの中にも、時折春の兆しが感じられる季節となりました。この冬、テレビ等を通じて、箱根駅伝を筆頭に各種駅伝大会や様々な世界選手権レベルの大会の舞台で躍動する若い世代の姿に、多くの勇気をもらった方も多いのではないでしょうか。限界に挑む彼らの瑞々しい感性と、並々ならぬ努力には、心からの拍手を送りたくなります。

さて、本校でも先日、5年生がスキー教室へ行ってまいりました。初めてスキー板を履く子がほとんどでしたが、子どもたちの吸収の早さには驚くものがありました。転んでもすぐに立ち上がり、翌日には見違えるようなフォームで滑り降りてくる。この「体得するスピード」は、まさに子ども時代という貴重な時期ならではの特権です。よく「子どもの頃に体で覚えたことは一生忘れない」と言われますが、雪の上で夢中で体を動かした記憶は、感覚として深く刻まれたことでしょう。

こうした姿を見ると、一つの問いが浮かびます。「子どもの頃から、何か一つの種目に特化して専門的に打ち込むべきか、それとも広く浅く経験させるべきか」という悩みです。

もちろん、若くして一つの道を極める素晴らしさもあります。しかし私は、小学校というこの時期には、できるだけ多くの「遊び」や「スポーツ」に触れ、多様な体の動かし方を経験してほしいと考えています。

専門的なトレーニングも大切ですが、いろいろなスポーツや昔ながらのおにごっこやボール遊びの中で、走る、跳ぶ、投げる、滑る、あるいは仲間と呼吸を合わせるといった「多様な刺激」を体に与えることは、将来どのような道に進むにせよ、しなやかで強い土台「根っこ」となります。それ以上に、「やってみたら楽しかった！」という純粋な好奇心の種を、心の中にたくさん蒔いておいてほしいのです。

学校生活においても、スポーツに限らず、勉強、芸術、そして日々の遊びなど、子どもたちが「いろいろな自分」に出会える機会を大切にしていきたいと思います。ご家庭でもぜひ、お子様が新しく挑戦したことや、興味をもったことについて、食卓の話題にしてみてください。

今の多様な経験が、いつか大きな花を咲かせるための確かな糧となることを信じています。